

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

芥川高校がめざす学校像は『豊かな人間力とグローバルな視点で、自ら考え行動し、主体的に進路を切り拓く力を持った生徒を育てる学校』。

- 1 自ら考え行動し、自律的・主体的に学びに向かい進路を切り拓く力を持った生徒の育成
- 2 自己肯定感を高め他者を尊重する態度を養い、高い規範意識と人権意識を備えた豊かな人間力を持った生徒の育成
- 3 多様性や異文化を理解する態度を備え、豊かな教養とコミュニケーション能力を身につけた、グローバルな視点で考え社会に貢献できる力を持った生徒の育成

2 中期的目標

1. 自ら考え行動し、自律的・主体的に学びに向かい進路を切り拓く力を持った生徒の育成

(1) 学力の向上（授業力向上）

ア：生徒が確かな学力を身につけ、好奇心を掻き立てられる授業となるように、教職員がいつでも、どこでも、だれとでも相談できる環境づくりと組織的な取り組みを推進する。

イ：言語活動を充実させ、主体的かつ論理的に自己を表現する思考力、判断力を養う。ICT等をより効果的に活用し、学習効果の可能性を追求していく。

ウ：観点別学習状況の評価（観点別評価）の活用により、生徒が自ら学ぶ力を高め、教員は指導と評価の一体化を実感する機会を得る。

*授業アンケートの授業満足度は、今後も満足度80%以上を維持する。(R3:85.0% R4:85.7% R5:86.6%)

(2) 希望進路の実現

ア：望ましい勤労観・職業観を持ち、主体的に進路を選択できる力を育むキャリア教育を推進する。

イ：「学力生活実態調査」を活用し、一人ひとりが希望進路に向けて頑張りきれよう、きめ細かい進路指導を行う。

*生徒向け学校教育自己診断における進路指導への満足度90%以上とする。(R3:90.1% R4:87.9% R5:90.7%)

*希望進路達成率は今後も85%以上を維持する。(R3:84.6% R4:89.3% R5:88.4%)

2. 自己肯定感を高め他者を尊重する態度を養い、高い規範意識と人権意識を備えた豊かな人間力を持った生徒の育成

(1) 体験学習の充実

ア：保育園実習等を通じて、福祉ボランティアに関する学びとキャリア意識の醸成を図る。

イ：地域や外部の諸機関と連携した体験活動の充実を図る。

*生徒向け学校教育自己診断における地域との関わりに対する肯定率を令和8年度には78%とする。(R3:64.2% R4:66.6% R5:75.0%)

(2) 学校行事、部活動の振興

ア：学校行事を通して自ら考え主体的に行動し協働する力を養う。また、地域等へ広く公開することで地元とつながり、生徒のシティズンシップを育む。

イ：部活動の入部率及び定着率を高め、その活性化とメリハリのある活動により学習との両立を図る。

*部活動加入率（6月集計）を令和8年度には75%とする。(R3:72.5% R4:74.5% R5:73.6%)

(3) 規範意識の醸成

ア：身につけさせたい規範意識を教員間で共有し、全体指導から学年・学級指導、個別指導につながる段階的な指導を徹底する。その指導がめざすところを生徒に説明、理解させ、主体的にルールやマナーを守ることができるように導く。

イ：あらゆる機会をとらえて規範意識の向上を図り、学校を「皆が安心して生活できる場」となるようにする。身の回りの人を尊重し、挨拶がしっかりとでき、時間を守ることができる生徒を育成する。

*生徒向け学校教育自己診断における規範意識に関する設問の肯定率を、令和8年度には95%とする。(R3:94.0% R4:92.2% R5:94.5%)

(4) 人権意識の向上

ア：すべての学校教育活動を通じて一人ひとりを大切に、大切にされる人権教育を推進する。

イ：生徒と教職員がお互い、お互いを尊重し、共に学び、学校全体として人権意識を高める取組みを実施する。

*生徒向け学校教育自己診断における人権教育に対する肯定率85%を維持する。(R3:84.0% R4:84.2% R5:91.9%)

3. 多様性や異文化を理解する態度を備え、豊かな教養とコミュニケーション能力を身につけた、グローバルな視点で考え社会に貢献できる力を持った生徒の育成

(1) 使える英語力の育成

ア：大学等の外部機関との連携により、「グローバル専門コース」の取組みの継続・発展と、英語4技能の育成を図る。

イ：4技能を様々な場面、様々な形で用いて英語に触れる機会を多くもつことを通して運用能力の向上を図る。その結果として、生徒の英語に関する資格への関心高め、実用英語技能検定等の資格取得や英語学力調査で得点率向上をめざす生徒を増やす。

*実用英語検定資格取得者を、令和8年度までには70人以上とすることをめざす。(R3:56人 R4:61人 R5:48人)

(2) 国際感覚の育成

ア：交流生の派遣や受入れ、手紙、オンラインでの交流等、多様な形態での国際交流を促進する。

イ：異文化理解をテーマとする国内修学旅行の実施等、国内において実施可能な形で異文化に触れる機会を創出する。

*生徒向け学校教育自己診断における異文化理解の取組みへの満足度80%以上を維持する。(R3:71.2% R4:75.2% R5:86.1%)

4. 信頼される学校づくり（教員力と情報発信力の向上）

(1) 次世代を支える教員の育成とチームとしての教員力の向上

(2) 教職員の働き方改革による時間外勤務削減

(3) 開かれた学校をめざした、学校情報の積極的な発信

(4) 中学生やその保護者に対する、芥川高校の魅力発信

*生徒向け学校教育自己診断における教員の協力体制に関する肯定率は、今後も85%以上を維持する。(R3:86.1% R4:87.2% R5:88.5%)

*保護者向け学校教育自己診断における情報発信に対する肯定率を、令和8年度には85%とする。(R3:82.4% R4:80.6% R5:84.3%)

*学校説明会・オープンスクールへの中学生および保護者の参加人数を、令和8年度には1100人以上とする。(R3:1124人 R4:1096人 R5:990人)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R5年度値]	自己評価
1. 自ら考え行動し、自律的・主体的に学びに向かい進路を切り拓く力を持った生徒の育成	1) 学力の向上			
	ア 確かな学力を身につけ好奇心を掻き立てられる授業を創るための、教職員が学びあえる環境づくり	ア・授業アンケートの振り返りによる授業改善 ・学校全体で相互授業見学を実施し、気づいた長所を見学シート等の利用により必ず伝えあう。	ア・生徒向け学校教育自己診断結果における教科指導への肯定率75%以上を維持 〔79.7%〕	
	イ 言語活動の充実と、より効果的なICT機器の活用のための体制の構築	イ・言語活動に重点を置いた校内研究授業を実施する。 ・ICTの活用に関するアイデアやツールを共有・ストックし、それをより多くの教員が効果的に利用できるようにするための研修等を実施する。	イ・授業アンケートにおける授業満足度(興味・関心・知識・技能に関する生徒意識)80%を維持〔86.6%〕 ・生徒向け学校教育自己診断結果におけるICT活用の肯定率80%〔79.7%〕	
	ウ 観点別学習評価の円滑な運用と自学自習力の育成	ウ・各教科の観点別評価規準を教科オリエンテーション等で生徒へ周知し向学心を高める。 ・週末課題等、自学自習力をつけさせるための取組を行う。	ウ・授業アンケートにおける授業の事前事後に必要な学習の実施率85%をめざす 〔84.4%〕	
	2) 希望進路の実現			
ア 望ましい勤労観・職業観を持ち、主体的に進路選択できる力を育むキャリア教育の推進	ア・「憧れる存在を見つけよう」をコンセプトに、卒業生や外部人材による進路講話やガイダンスを通して、社会に貢献する自分像をイメージできるようにする。	ア・生徒向け学校教育自己診断結果における進路指導(進路や生き方について考える機会の提供)への満足度90%以上〔87.9%〕		
イ 個々の生徒の想いを受け止め希望進路に応じたきめ細かい進路指導	イ・個別懇談等により、一人ひとりきめ細かい進路指導を実施し、進路実現に向けて頑張り切れるよう支援する。また、活動記録を適切に残し活用する。 ・外部教育産業を活用して、「学びの基礎診断」の分析結果を各教科・学年団で共有することで、指導の振り返りと計画、面談等に生かす。 ・「進路のてびき」の有効活用や保護者向け進路講演会等で、早い段階から希望進路実現に向けた意識を高める。	イ・生徒向け学校教育自己診断結果における進路情報提供への満足度90%をめざす〔89.4%〕 ・保護者向け学校教育自己診断結果における進路情報提供への満足度80%以上〔78.6%〕 ・希望進路達成率85%をめざす〔88.4%〕		

2. 自己肯定感を高め他者を尊重する態度を養い、高い規範意識と人権意識を備えた豊かな人間力を持った生徒の育成	1) 体験学習の充実 ア 福祉ボランティア実習の充実	ア・保育実習及びその事前・事後指導を充実させ、福祉に対する意識をより高めるための機会とする。 ・高齢者疑似体験や障がい者施設での実習等、福祉ボランティアに関する体験学習の可能性を探る。	ア・生徒向け学校教育自己診断結果における福祉ボランティア等に関する肯定率 80%を維持 (86.1%)
	イ 地域と連携した体験活動の充実	イ・地域主催の行事等への積極的な参加やボランティア活動、近隣の他校種との交流等を通じて、地域を愛し、地域に愛される体験の機会を持つ。	イ・生徒向け学校教育自己診断結果における地域交流への肯定率 75%以上 (75.0%)
	2) 学校行事 部活動の振興 ア 主体性・協働性の涵養、地域とのつながりによるシティズンシップの涵養	ア・生徒が行事に主体的に関与して協働的に取り組み、やり切る経験ができるよう、サポートを強化する。 ・学校行事への地域等関係団体の招待など地域や近隣施設との連携を深める。	ア・教職員向け学校教育自己診断結果における行事充実への工夫の肯定率 90%以上を維持 (94.6%)
	イ 部活動の活性化	イ・行事において部活動部員の活躍の場を設け、学校全体で部活動を応援する雰囲気をつくり、入部率および継続率向上を図る。クラブ単位での外部連携を深める。	イ・6月時点の部活動加入率 75%以上 (73.6%)
	3) 規範意識の醸成 ア 生徒が自主的にルールやマナーを守ることができるようにする。	ア・全ての教職員が「あくたベース（生徒指導編）」に基づいた統一した指導を行う。 ・ルール・マナー・モラルを守ることが、皆が安心して安全に過ごせる場をつくることにつながることを伝えていく。 ・あらゆる機会を通じて生徒に夢や生き方を語り掛け、一人ひとりかなくてはならない存在であることに気づかせる。	ア・懲戒件数を5件以下とする (6件)
	イ 生徒指導や安全教育等、あらゆる機会をとらえての規範意識の向上。挨拶がしっかりとでき、時間を守る生徒の育成。	イ・自らと身の回りの人を大切にすることがすべてにおいて優先するという日常的な指導を徹底し、交通安全指導や防災避難訓練、薬物乱用防止教室等様々な機会も利用して、規範意識の向上を図る。 ・遅刻指導により、時間を守り、学校生活を大切にする生徒を育てる。	イ・生徒向け学校教育自己診断結果における規範意識への肯定率 95%以上 (94.5%)
4) 人権意識の向上 ア 一人ひとりを大切にする人権教育の推進	ア・身近にある人権課題を見逃すことなく、全教員が一貫性のある人権教育を推進する。 ・保健室での聞き取りや教育相談委員会での情報を活用し、スクールカウンセラーや専門機関等と連携して、生徒、教員一人ひとりを大切にするために教育相談をさらに充実させ、生徒の成長を支援する。	ア・生徒向け学校教育自己診断結果における人権教育への肯定率 85%を維持 (91.9%) ・生徒向け学校教育自己診断結果における気軽に相談ができる教員の存在の肯定率 65%以上を維持する (67.2%)	
イ 生徒、教職員が共に学び人権意識を高める。	イ・人権教育計画に基づき、教科や特別活動等、学校教育活動全般を通じて人権教育を実施し、一人ひとりを大切にする教育を実践する。 ・生徒のみならず、教職員も人権に関する学校内外の研修に積極的に参加し、人権意識の向上を図る。	イ・教職員向け学校教育自己診断結果における人権教育への肯定率 90%以上を維持 (94.6%)	

<p>3. 多様性や異文化を理解する態度を備え、豊かな教養とコミュニケーション能力を身につけた、グローバルな視点で考え社会に貢献できる力を持った生徒の育成</p>	<p>1) 使える英語力の育成 ア 高大連携等「グローバル専門コース」の取組みの継続・発展と、実用性の高い英語力育成 イ 生徒の英語に関する資格への関心を高め、英語検定等の資格取得推進</p> <p>2) 国際感覚の育成 ア 海外交流生の派遣や受け入れ等、国際交流の促進 イ 国内で実施可能な異文化理解の機会の創出</p>	<p>ア・グローバル専門コースにおいて、平常の授業との関連を密にし、高大連携による特別授業や留学生等との英語での交流など、取組みを継続・発展させる。</p> <p>イ・校外の英語力向上プログラムや人材の活用、授業等を通じて英語4技能を育成し、検定試験の校内受験機会の設定や対策講座の実施により資格取得を奨励する。 ・令和5年度に立ち上げたグローバル専門コースの種々の取組みを継続・発展させると同時に、コース以外の生徒にも広げていく。</p> <p>ア・海外交流生の短期語学研修受け入れを実施する。並行してオンラインやカード等を用いた国際交流体験の機会も設ける。</p> <p>イ・異文化理解をテーマとする修学旅行、留学生やJICA 海外協力隊経験者による講演など、国内外の様々な文化理解を目標とした学習を実施し、日本に住む高校生としての国際感覚に根差したアイデンティティを育む。</p>	<p>ア・授業アンケートにおけるグローバル専門コース選択科目の授業満足度 90%以上を維持〔94.6%〕</p> <p>イ・英語検定等の資格取得者数 65人以上〔48人〕</p> <p>ア・国際交流プログラムに参加した生徒の満足度 95%以上を維持〔100%〕</p> <p>イ・生徒向け学校教育自己診断結果における異文化理解の取組みへの満足度 80%を維持する〔86.1%〕</p>	
<p>4. 信頼される学校づくり（教員力と情報発信力の向上）</p>	<p>1) 次世代を支える教員の育成とチームとしての教員力の向上</p> <p>2) 教職員の働き方改革による時間外勤務削減</p> <p>3) 開かれた学校をめざした、学校情報の積極的な発信</p> <p>4) 中学生やその保護者に対する、芥川高校の魅力発信</p>	<p>・種々の取組みの充実と並行して、業務の軽減・円滑化・合理化・平準化・効率化を図り、教職員が連携協力し支え合う余裕を生むことで組織力の向上を図る。</p> <p>・「何かありますか」から「これやりますね」への移行を図り、お互いの声をかけ合い、助け合い、学び合う組織文化を醸成する。</p> <p>・次世代を支える教員が中心となって企画運営する、「もっと知りたい、もっと良くなりたい」がフランクに言える教員の自主研修などによって教員力向上を図る。</p> <p>・ICTの活用や部活動の適切な休業日設定、業務のスクラップによる軽減等、働き方改革を推進し時間外勤務削減を図ることにより、教職員の健康とワークライフバランスを守り、教科研や生徒と向き合う時間、自主研修時間の確保に努める。</p> <p>・学校部活動方針（休養日等）の遵守及び全校一斉退庁日の遵守を推進し、時間外勤務の圧縮を図る。</p> <p>・メールマガジンやホームページ等を活用し、必要な学校情報をよりタイムリーに発信する。</p> <p>・学校ブログ等に生徒が寄稿し、日常の学校の様子や取組みを生徒の視点と言葉で発信していく。</p> <p>・学校新聞「芥川」を地域と学校をつなぐツールと捉え有効に活用し、広報活動をより一層充実させる。</p> <p>・「芥川高校の生徒教職員の魅力」が詰まった学校長ブログを積極的に発信していく。</p>	<p>・生徒向け学校教育自己診断結果における、教員の協力体制に関する肯定率85%以上を維持〔88.5%〕</p> <p>・月80時間を超える時間外勤務教職員の延べ人数を引き続き減少させる〔2月末まで延べ43名〕</p> <p>・教職員一人当たりの月間平均超過勤務時間を令和5年度より8%削減〔1月まで32.5時間〕</p> <p>・保護者向け学校教育自己診断結果における家庭への情報提供に関する肯定率85%〔84.3%〕</p> <p>・オープンスクールおよび学校説明会への参加者1050人以上〔990人〕</p> <p>・年間85本以上〔87本〕</p>	